

# 「いつ落ちるか」に「らめっ」の毎日

新潟県新発田市の敬和学園大（北垣宗治学長）で「ニュートンのリンゴの木」に実がなり、話題になっている。先ごろの台風8号で8割の20個が落ち、現在残っているのはわずか5個。科学史の担当助教授や学生らは、「ニュートンが万有引力を発見した時のように、熟して自然に落ちるのを見たい」と、残る実を真剣なまなざしで見つめている。

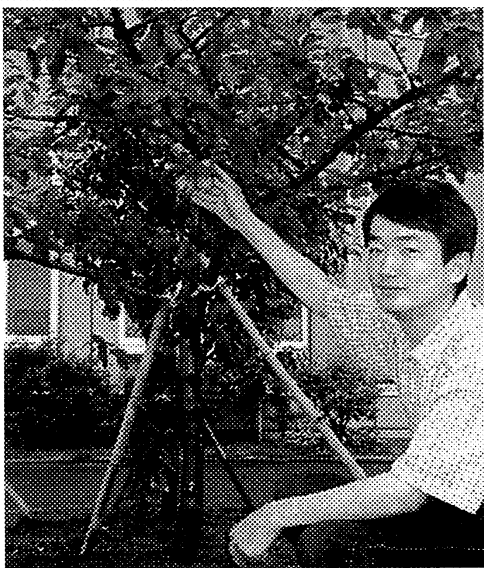
## 社会部発

ニュートンといえば、「らみですねえ」。送迎バスを待  
リンゴの実が落ちるのを見て万  
つ学生たちも、いつ来るか分  
有引力の法則を発見した」と  
からない「自然落下の瞬間」  
いうエピソードであまりにも  
を見ようと、実とにらめっ  
有名。科学史を専門とする西

村秀雄助教授（39）は、また  
青い実を眺めながら、「6月  
は、日本でも複数の研究機関  
中旬に実がなっているのを発  
で英国の「元祖」から枝分け  
見しました。あのニュートン  
された子孫が育っている。敬  
のリンゴ。恐れ多くて、幹を  
和学園大では、1991年  
抱き締めたいほどうれしかっ  
たですよ。いつ落ちるか楽し  
田県東樹試験場から約30キロ

### 晩年友人に告白

◆「ニュートンとリンゴ」ニ  
ユートンは1665年、ケン  
ブリッジ大在学中の22歳の時  
に、ペストの流行で大学閉鎖  
となり、生まれ故郷のウール  
ズロープに戻った。晩年、同  
郷のステュークリという友人  
にそのころのことを話した。  
「リンゴの実が落ちてきて  
はつと重力の考えを思いつい  
た」という回想から「ニュ  
ートのリンゴ」が万有引力発  
見につながったという話にな  
った。



残り5個となったニュートンのリンゴの実。自然落下できるか

どの枝を譲り受け、「ニュー  
トンのように世界に羽ばたく  
人材が育ってほしい」との願  
いを込めて植樹した。  
実は同じ新潟県の建設省土  
木研究所新潟試験所でも昨年  
ニュートンのリンゴの実がな  
り、連日24時間態勢でビデオ  
を回して「瞬間」を見届けよ  
うとするなど話題になったの

だが、近く  
の住民がもいでしまつて涙を  
のんだ経緯がある。先月の台  
風8号で20個が落ちた同大の  
リンゴも残り5個というピン  
チだが、西村氏は「うちでは  
ビデオを回す予定はありませ  
ん。熱心に観察した人勝ちで  
すね」という。

実際に見る木は、高さ約2  
層半とかなり小ぶり。品種改  
良をしていない原産種に近い  
木のため、実も「スモモ」  
くらいの大きさしかない。重  
さも一個約100g程度（普  
通のリンゴは約250g）。

物理学では100gの物体に  
働く力の単位を「ニュート  
ン」と呼ぶのも、ドラマチツ  
クな偶然といえそうだ。  
ところで、これだけの貴重  
なリンゴ。食べてしまいたい  
衝動に駆られることはないの  
だろうか。西村氏は「そりゃ  
あ、あります（笑い）。で  
も、かなり酸っぱくて、まず  
いそうですよ」。よく見る  
と、1個のリンゴに何やら歯  
形らしきものが、「うーん。

まさか本当に食べよう  
とした人がいたのかな」。

西村氏は、万有引力の法則  
について「ノーベル賞10個く  
らいのすごい発見。このおか  
げで人工衛星が飛び、今もマ  
ーズ・パスファインダーが火  
星探査できるんですから」と  
語る。

「リンゴが落ちたというだ  
けのことで新発見の着想を得  
るような発想力、柔軟さを、  
若い学生たちにもぜひ持つて  
もらいたいですね。小さなリ  
ンゴですが、未来ある学生た  
ちの励みになってくれればと  
思っています」。

【梅田恵子】

